

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971000011	
法人名	社会福祉法人 愛寿会	
事業所名	グループホーム やすらぎ	
所在地	山梨県北杜市長坂町小荒間1293	
自己評価作成日	令和3年1月3日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応型の施設として、豊かな自然に恵まれ四季の美しさを肌で感じられることを特徴とし、ご家族や地域との交流に心掛け、地域に根差した総合老人福祉施設内に位置する特色を生かし、法人の協力を得ながら、入居者が自分らしく生活できるよう支援を行っている。高齢化のため嘱託医や施設の医務と連携し健康管理に特に注意している。
令和2年度はコロナ禍で実施できないものが多かったが、原則として家族と交流が頻回にできるよう面会を自由とし、地域の保育所や小学校、公民館活動、祭りに参加し交流を図っている。高齢化のため外出の機会が減っている入居者のため季節ごとに体調に合わせてドライブを実施したり、昔からの行事を実施し、その様子を写真やラインで発信したり、毎月担当が直筆でお便りを発送している。年3回実施して、全家族が複数参加していただいている家族会が実施できず、残念とのご意見をいただいた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所「やすらぎ」は南アルプスが展望できる広大な敷地内に社会福祉法人の建物の2階に位置し、特別養護老人ホーム・デイサービスセンターと共に高齢者福祉の事業所として、地域での福祉サービス提供の役割を担っている。管理者始め職員は、「やすらぎ」が目指すものとして、一人ひとりを大切に、その人らしい暮らしを送って行く喜び楽しみが生まれいきいきとす・自然と触れ合いながら暮らす・質の高いケアサービスの提供など常に大切にして、開かれたグループホームを目指して日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	の	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とフーカー室に掲示し、周知徹底を図り、日々の引継ぎ時や処遇会議時に理念に基づく処遇を検討している。	事業所が目指すものとして、5項目を掲げ、一人ひとりがそのひとらしく、生き生きと地域の人や自然と暮らして行けるよう管理者職員は、日々話し合い実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館活動や祭りに参加したり、保育所のお楽しみ会や運動会に参加し交流を図っている。夏祭りに招待したり施設の交流センターを利用して交流の機会を増やすよう計画している。	例年では、保育園の運動会に招待され参加しているが、新型コロナウイルスの影響で参加が出来なかった。今年度は、公民館祭りへ利用者の作品を出品している。運営推進会議メンバーが事業所を訪問し普段の暮らしの中で、地域と交流しながら暮らし続けられる様にパイプ役となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の入所者や利用者とは交流できている。整備し直した交流センターの活用を計画している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所以来2か月に1回定期的にご家族代表、地域代表、市包括支援センター職員、事業所職員が参加し実績報告、事業報告を行い地域課題についても話し合い、アドバイスをいただいている。	コロナ対策を行い、2か月に1回午前中に実施している。実績報告・利用状況などの説明を行いアドバイスや意見ももらっている。サービス評価の結果を開示し次のステップに向けサービス向上に活かしている。運営推進会議のメンバーが常に訪問し、事業所の取り組みを理解して、地域とのパイプ役となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所、退所の状況、困難事例の相談に乗っていただいたり情報交換を行っている。	入居状況や困難事例の相談をしている。入居時の資格有無・帰宅願望の方について、市の担当者と関係者を交えて話し合い、地域での見守りを頼むなど、現場の状況をしっかりと受け止め、認知症ケアの実際を理解してくれ連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の錠錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研究委員会に職員が全員所属し研修し身体拘束についても学習会に参加し理解を深めている。帰宅願望が強い利用者の対応についても常に話し合い、錠錠せざつ方の見守りや対話にて安心していただける対応に心掛けている。	法人全体で接遇についての研究委員会があり、虐待防止委員会では担当職員が参加し、情報は回覧し共有している。スピーチロックについては、引継ぎ時や会話の中で気が付けば、お互いに注意している。利用者が戸外に出たい時は、チャイム音で職員と一緒に付き添い自由な暮らしの支援に務めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護の研修会に参加したり、施設内研修会に参加した職員が伝達講習を実施している。認知症対応のストレスについても日々情報交換を行い、虐待につながらない方法を話し合っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、伝達研修を実施している。また成年後見人制度を利用している入居者について実際の手法、対応を共通理解できるよう常に話し合っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	算定見直しの都度、ご家族に説明承諾を得ている。入居に伴う契約の際は事前に説明を行い、疑問点について繰り返し納得いただくまで説明し承諾をいただいている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	の	の	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会を利用してご意見を伺っていたが、面会制限や中止に伴い、毎月お便りと一緒に連絡、お願いを発送し不明な点は電話にて管理者が説明し運営に反映するように対応している。	利用者が重度化して来ているので、グループホームとしての対応が困難だが、家族としては出来ればこのままいたい。との意見があり利用者の状況に合わせて、併設の事業所との連携で、意見を取り入れていくよう努めている。利用者の処遇担当職員は、日々の様子を手書きの「おたより」で郵送し意見が言い易い機会を作り運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の引継ぎ時に意見を出すよう働きかけ、周知徹底のため連絡帳を活用している。連絡帳に提案や意見も書くようにしており、必要に応じ全員で集まり処遇会議を実施し意見を出しやすい状況を作っている。	職員は日常の自己評価の中で意見を言える機会がある。老朽化した大きな加湿器やフロア毎の加湿器の修理やコロナの関係で隔離室をとの意見があり、職員の意見や気付きを運営に取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに勤務評価を実施し、個人の勤務希望についても聞く窓口をいつでも開いている。資格取得についても奨励手当の制度があり、外部講師による研修会やサークル活動も奨励している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研究委員会に全員が所属し、研修内容を持ち帰り伝達講習を行っている。自己研鑽の研修も必要を認めるものは業務としての参加を認めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と交流を図り、居宅の事業所とも連絡を取り合い、互いの情報交換を行っている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人とご家族に書類で説明し、事前訪問時、生活と契約についての再度説明し要望を伺いコミュニケーションに努めている。要望については可能なものについては受け入れ、難しいものについては代替案を提案している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人とご家族と一緒にアセスメントを実施し不安や要望を伺っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント段階で本人、ご家族、これまで活用されていたサービス事業者との連携を図り、言葉にならないニーズの確認も行いながらサービスの中で活用、継続するものを提案していく。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望と残存機能の活用を念頭に置きながら、ホームでの生活、活動内容の提案を行い、本人の反応や意見を察映していく。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	の	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事前に家族として関わっていただく範囲の内容に話し合い、面会や電話等連携する機会を多く持たせ、ホームと家族の役割分担の構築に努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	協会やこれまでの知り合いに訪問しやすい環境づくりを行い、働きかけを行っている。コロナ禍以降は日常の写真をお便りの都度同封し、ご家族に知り合いにも見せていただくようはたらきかけている。	教会のミサでの友人が訪問してくれる。新型コロナウイルスの影響で面会が出来ないため、玄関脇に窓越しの面会が出来るように特設場を設置し、家族・友人・近所の方の訪問が多くなり関係支援の継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	マイペースに生活していただくことを基本としているが、個々の人間関係作りの仲立ちを職員ができるよう、利用者の心の動きに注意し把握に努めるよう心掛けている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退居されたご家族からハガキや遺品を届けていただいたり、スーパーでお会いした時利用者の様子を尋ねられる。特養入所された方には利用者との面会に行っており、そのご家族からも連絡がある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメント聞き取りしているが、同時に「生活歴」の用紙をご家族に渡し、本人の嗜好や生き方、趣味、人となりを記入していただき、それを参考に思いや意向の把握に努めている。	家族から以前の暮らし方など様子を聞き、ここでの生活に結びつけている。生活歴の中から汲み取って、ケーキ作りが得意な利用者には、中心となって昔話をしながら作るなど、一人ひとりの思いや暮らし方を理解するためのアプローチを丁寧に行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「生活歴」や以前利用されていたサービス事業所の職員と情報交換し、ご本人の表情、言葉などを手掛かりに職員間で話し合い共有し対応している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	定期的なバイタル測定、全身観察、状況の記録により職員間で気づきを連絡帳などの活用により現状把握につとめている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や家族会でご家族の希望や意向の確認を実施しカンファレンスに活用してきたが、面会制限以来難しくなったため、事前に用紙を送り意向の確認し計画作成時参考として、その方らしく生活していただけるプランの作成に心掛けている。	入居時に利用者、家族から意向を聞いて暫定プランを立て1か月で見直しをしている。プランに沿ってケース記録を作っている。アセスメントを含め職員の意見を反映し次回のモニタリングに活かし、家族に説明をし同意を得てプランを作成している。変化が生じた場合は、モニタリングに基づいた介護計画の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を当番が記録し、担当が週ごとにプランに基づき個別記録を作成している。計画作成者が支援経過を記録し急変時やプラン作成時活用している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	の	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診等職員で対応しきれない状況については特養の職員や事務職員の協力を得られるよう申し合わせている。個別レクや訓練については医療職員の協力を仰ぎ本人の希望に沿った対応に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	補聴器の定期点検、図書館の活用やお届けサービス、訪問マッサージ、ボランティアの訪問、歯科往診等希望に添えるよう地域資源との連携を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医受診の継続、訪問診療医との連携を図り、ご本人と家族が希望する医療の提供に努め、急変時の対応についても家族と連携し付き添うよう支援している。施設の嘱託医も週1回全員について往診してくれ、主治医でない方についても相談に乗ってくれている。	入居時に本人・家族が希望する医師に受診できるように対応をしている。嘱託医の往診が週1回あり、相談すれば、嘱託医以外の利用者也診てもらえる。かかりつけ医の受診の際は、家族の対応で医療情報は文書で共有し、利用者が適切な受診が出来るように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師以外も毎日様子を見に来て利用者の状況を把握してくれている。変化時報告するとすぐ対応し状況により嘱託医や関係病院との連携も取ってくれている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、医療情報を病院の相談員と連携を取り、病状報告、リハビリ状況、退院調整、退院後の生活評価等連携し一日も早く退院できるよう関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、見取りについて指針を説明し、またはカンファレンス前の意向確認にその時どきのターミナルの希望確認を行っている。体調の低下時にも希望確認と現状についての説明は蜜に行っている。	入居時に重度化に伴う対応について説明をし、利用者・家族から意向を聞いている。看取りについては、主治医から看取りの意見をもらい、家族に説明し同意をえている。ケアプランを立て、日々の記録を付けて状況を見ながら、随時意志を確認し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置については、毎年医療職員による講習会を実施し、変化が予想されるときは朝礼時やミーティング時に対応について確認を行っている。急変時や事故発生時についてマニュアルが作成してあり、電話の近くに各機関への連絡方法や持ち出せる情報が用意してある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月法人の防災対策委員会に参加し、各種訓練や情報を収集している。地域の消防団との連携も図り防災訓練時は参加してもらっている。2年度は土石流災害対応の縦避難訓練と緊急持ち出し用品の整備、確認を行った。	法人全体の防災訓練は、9月に実施し土石流災害を想定して、4階の特別養護老人施設への避難訓練を実施している。地元の消防団からアドバイスをを受け地域との協力を得ている。車いす利用者の対応もしっかり出来、夜間想定訓練も行っている。訓練につて、記録に残し評価して次につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけやプライバシーの保護についてはミーティング時、気になることについてその都度話あっている。個人情報の管理はワーカー室内のカギのかかるキャビネットにて管理している。	法人内に七つある研究委員会の一つ接遇研究に参加し、スピーチロックについて学んでいる。禁句集を作成して、ワーカー室に掲示し周知を図っている。利用者が、自ら選ぶ事ができるように選択肢を多くし、自己決定し易い機会を作っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	の	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レク内容やお菓子や嗜好品など自己決定する機会を多く設け、意思を表出できるよう働きかけている。表出が困難と考える利用者については言葉かけ多くし、表情の動きなど敏感に捉え、本人の希望の実現に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のこれまでの暮らしぶりをご家族から聴取し、本人からもうかがいながらご自身のペースに合わせた支援に努めている。レク等もその日の体調や希望に合わせて何種類か用意したり、個別レクや訓練など実施したり休養も行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に家族交流の意味で通われている方以外は、定期的に出張美容室にお願いし散髪してもらっている。レクで出掛ける場合季節に合ったおしゃれができるように季節ごとのお出かけ着用も用意していただき助言を子っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた食材や地元の食材を活用するため職員が順番で利用者の意見を伺いながらメニューを作成している。節季の行事食や地域の伝統食なども取り入れるよう心掛けている。残存機能を考えながら野菜の下ごしらえや片付けも手伝っていただき味見もお願いしている。	献立は、季節に合わせて利用者に聞き職員が1週間分立て、お正月の行事食も取り入れている。日常の調理の下ごしらえ・茶碗洗いなど職員と一緒にして、食事を1日の大切な活動の一つとしている。職員と利用者が、同じテーブルで一緒に楽しく会話をしながら食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の協力を得てメニューの点検、体調に合わせた栄養補助食品のアドバイスをしてもらっている。食事量、水分量についてはケアプランに揚げ量のチェックや提供の工夫を記録し検討している。きざみ、ミキサー食についても利用者の状況によりその場で作り提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員の口腔ケアを行っている。義歯の消毒も週2回消毒液につけ実施している。歯科往診を法人の往診日に実施している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、その方にあった排泄方法や用具の検討を定期的に行っている。声掛け、誘導、確認についてプライバシーの保護を念頭に置きながら実施し日中はトイレでの排泄を基本と考え、夜間についても清潔と睡眠の確保の両方に配慮しながら支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員はトイレ誘導など個別に支援している。行きたい時にトイレに行く事が出来る利用者は、見守る対応をしてトイレでの排泄を大切にしている。夜間についても、一人ひとりの排泄パターンに合わせて検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録を参考に水分摂取と運動を基本し便秘予防に努めている。水分量が少ない方には、食物繊維の多い食品やゼリー、寒天などの補食、主治医と相談し下剤の服用などにより個人にあった支援を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回の対応になっているが、希望あるときは随時入浴、シャワー浴可能。普通浴困難になっても併設の特養の座位浴、臥床浴を利用することが可能なため体調が悪い時以外入浴できる体制をとっている。	基本的には、週2回の対応となっているが、夏季・冬期の季節によって時間を変えている。浴室は、明るく日当たりが良いなど希望を確認して対応している。ゆず湯・バラの花びら等、季節に応じて楽しみ、個々に沿った支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	の	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の大きな日課は決まっているが、利用者の希望に応じた生活が提供できる。利用者のニーズに合わせた内容を職員間で常に検討している。 休養は自由に自室で可能であり、夜間は2時間毎に巡視、安全確認を実施している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服についてはマニュアルに添って、準備、配薬、飲み込み時と常に二重チェックしながら提供している。薬が変わるごとに何が変わったかを連絡帳に記入し徹底を図っている。 個人毎に薬の説明書のファイルを作り職員がすぐみられる状況にある。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの聞き取りやプラン作成時のアセスメント、日常の会話から嗜好や得意分野の確認をし、日常生活の中で役割分担をしたり、レクリエーションや可能な作業の提供を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内や敷地内は自由に散歩できる状況にあるが、坂や階段も多いため、常に付き添ったり、見守りする状況を作っている。気候の良い時期は畑や施設内散歩を日課として実施している。季節ごとのドライブは利用者の自宅やなじみな場所を経路に組み込みながら計画している。寒い時期も日光浴は常に行っている。	日常的に法人内の日当たりの良い場所で外気に触れている。事業所脇の畑の野菜を収穫したり、近所のブルーベリー畑に行くなど、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外へ出かけられるような支援を積極的に行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を失くす不安が強い方が多いため、所持している方は現在いないが、希望により所持することは可能。また職員の食材のショッピングに同行し買い物することも。買い物レクも計画実行している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙が出せる体制は取っている。携帯電話も所持されている方もいた。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中過ごされる居間、食堂は日当たりが良いスペースにあり、カーテンを開ければ富士山や南アルプスが望める。玄関や廊下にはこれまでの利用者の作品や共同作業で出来上がったちぎり絵や作品を季節に合わせて張り替えている。夜間の照明は希望に合わせて足元灯や枕灯、間接灯など切り替えている。	コロナ禍であるため、ソーシャルディスタンスの対応でテーブルの間隔を広く取り、利用者が安心して過ごせるように工夫している。共有スペースは広く窓からの明るい陽射しで過ごし易い場所となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のため一同に会するテーブルの外、何か所かにテーブルやソファを配置し、自由に集える空間を作っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた私物や家具を持参していただき、居心地よい空間づくりに努めている。また家族の写真や作品を持ち込んでいただき掲示している。	事業所の備え付け以外の品は、家族の協力で部屋作りされ、利用者が描いた絵やお孫さんが描いた絵が飾ってあり、自宅に居るように工夫されている。また、天井まで届くようなパイプのスチーム式暖房機器や二重サッシ対応で寒冷地使用になっている。利用者にとって居心地良く過ごせる居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設としてバリアフリーや手すりの配置など安全へのノウハウを活用して作られているが、利用者に合わせて作業台や車椅子でも使いやすい洗面台など工夫している。			